

「今、私の晴雨計は！」③

「七十歳になってわかったこと」③

平山征夫

二回も脱線してしまった。今回はまじめに「七十歳になってわかったこと」を書こう。「いくつになっても若い女性に関心があることが分かった」とはじめに書いたが、それは良寛を見ていて分かった。弟子は遍澄のほかには採らないと言っていたが、貞心尼が現れたら喜んで弟子にしている。あれだけ無欲恬淡の良寛でも人間、特に若い女性への興味は尽きなかったのだろう。人間にとって一番嬉しいことは、良き家族と肝胆相照らす友人に恵まれることと思った。

昔から物欲があまりないせい、金をダブダブにして値上がり予測で人の物欲を刺激し景気を回復しようという「アベノミクス」は嫌いだし、政策的にもおかしいと思っている。以前ある雑誌に「良寛とアダムスミスとアベノミクス」という題でそのことを書いた。アダムスミスは「国富論」に先立つ「道徳感情論」という倫理学の本の中で「人間には、見栄や欲からより多くの富を求め続ける「弱い人」と、ある程度豊かであればそれ以上の富が人を幸せにすることはないことを知っていて、他のことに価値を見出す「賢い人」がいる。世の中前者が圧倒的に多いが、だから社会は経済成長するわけ、必ずしも悪いとは言えない。

い・・」と述べている。二五〇年以上前ながら非常に鋭い指摘だ。良寛的に生きようという私は、アダムスミス流に言えば賢い人になりたいと思っているわけである。「アベノミクス」に対する私の違和感は、それが国民を弱い人となし、最近の安保法制見直しも含めて安倍政権の方向は、いまだ明治政府の「殖産興業・富国強兵」路線と同じしか見えない。ここまですで成熟した日本が今目指すのは、競争による永遠の成長ではなくて、人々が多様な生きがいを助け合いながら見出せるもっと「幸福」を実感出来る社会ではないだろうか。

最近講演を頼まれると、最後に「奪い合えば足りない社会から分かち合えば余る社会へ価値観を変えよう」と提唱している。偉そうで恥ずかしいのだが・・・。もう一つ知事退任の時確信したことがある。永年陳情を受け「日本列島パラサイト状態」を眺めてきたからだろう「人間社会にとって一番重要なルールは、自分とは自分です、でも困っている人がいれば助け合う」ということだと・・。六十歳にしてやっと当たり前のことに気が付いたという想いだっただが七十歳を越えそのことの大切さを一層確信している。